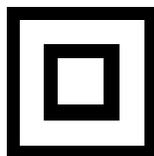


日立電子サンダポリッシャ

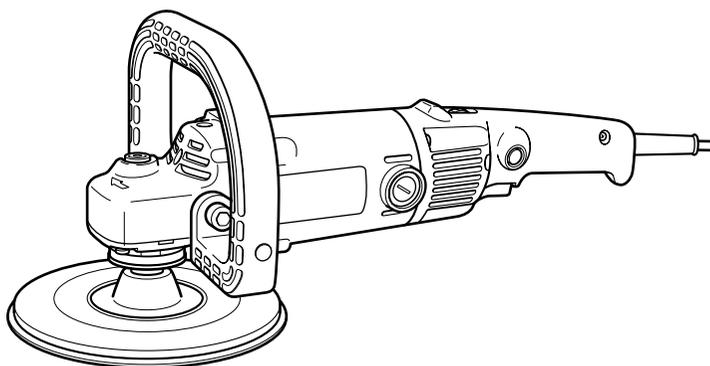
180mm SP 18VA

取扱説明書

このたびは日立電子サンダポリッシャをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



二重絶縁



目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
電子サンダポリリッシャの使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕様	7
標準付属品	8
別売部品	8
用途	8
作業前の準備	9
ご使用前に	10
使い方	12
保守・点検	13
ご修理のときは	14
全国営業拠点	裏表紙

警告、 注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」、「 注意」、「 注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注** : 製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警 告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

 **警 告**

- ⑨ 保護メガネを使用してください。**
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。**
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。**
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のつがった所に近づけないでください。
- ⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。**
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。**
- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。**
- 使用しない、または修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ 不意な始動は避けてください。**
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。**
- 屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。



警 告

⑱ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑲ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

⑳ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉑ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

回 二重絶縁について

電気が流れる導体部と人の触れる外枠部の間が、二つの絶縁物で二重に絶縁されている電動工具で、この製品には“回”マークを表示しています。

二重絶縁工具は、感電に対し安全性が高められています。

異なった部品と交換したり、間違っ組立てると、二重絶縁構造ではなくなり、危険です。

電気系統の分解・組立や部品の交換・修理は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

電子サンダポリッシャの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、電子サンダポリッシャとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

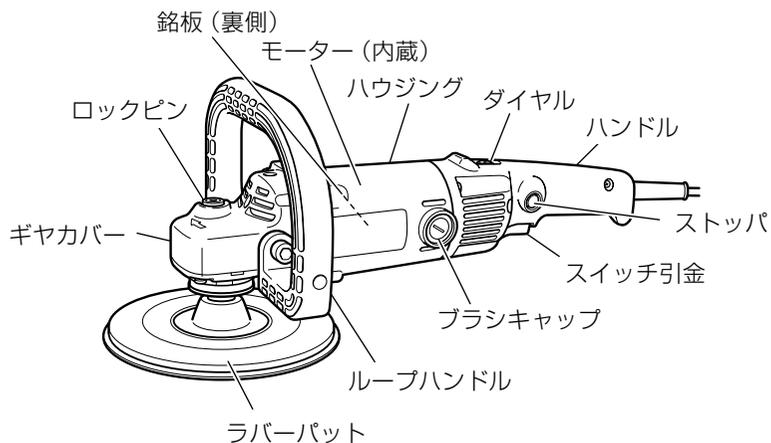
警 告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 先端工具（ラバーパット、羊毛ボンネットおよび別売部品など）にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
異常があると、先端工具が破壊し、けがの原因になります。
- ③ 使用中は、振り回されないようにループハンドルを付け、機体を両手で確実に保持してください。
確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ④ 水、研削液などは使用しないでください。
乾式用のため、感電の恐れがあります。
- ⑤ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。
けがの原因になります。
- ⑥ 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑦ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
けがの原因になります。
- ⑧ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑨ 誤って落としたり、ぶつけたときは、先端工具や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑩ 本製品は電子サンダポリッシャです。トイシを取付けてディスクグラインダとして使用しないでください。

 注 意

- ① 先端工具や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 新しい先端工具を取付け、はじめてスイッチを入れるときは、回転部から一時身体を避けてください。
先端工具が破壊したとき、けがの原因になります。
- ③ 試運転を励行してください。
試運転時間は、11ページの「7. 試運転を行なう」の項をご参照ください。
試運転せずに作業開始すると、思わぬけがの原因になります。
- ④ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。
また、コードを引っかけたりしないでください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

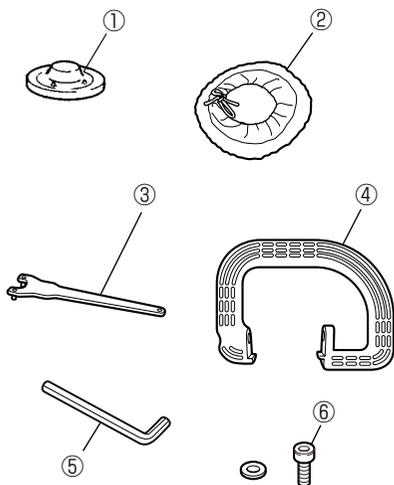
各部の名称



仕様

使用電源	単相交流 50 / 60 Hz 共用	電圧 100 V
モーター	単相直巻整流子モーター	
全負荷電流	13 A	
消費電力	1240 W	
無負荷回転数	0 ~ 3400 min ⁻¹ { 0 ~ 3400 回 / 分 }	
質量	2.8 kg (ラバーパット、コードを除く)	
コード	2 心キャブタイヤケーブル 2.5 m	

標準付属品



- ① ラバーパット…………… 1 個
- ② 180 mm 羊毛ボンネット …… 1 個
- ③ スパナ…………… 1 個
- ④ ループハンドル…………… 1 個
- ⑤ 六角棒スパナ…………… 1 個
- ⑥ 六角穴付ボルト（ワッシャ付）… 2 個
- ⑦ 180 mm サンディングディスク … 5 枚

（粒度 P 24、P 30、
P 50、P 80、
P 120）各 1 枚

別売部品

……………（別売部品は生産を打ち切
る場合があります）

作業に適した別売部品をお選びください。

○ 180 mm サンディングディスク

サンディングディスクは粒度が P16、P20、P24、P30、P36、P40、P50、P60、P80、P100、P120 と 11 種類ありますので、ご要求の際は適当な粒度をご指定ください。

用 途

- 自動車、車輛、エレベータ、冷蔵庫、マシン、洗濯機、医療機器などの金属、塗装面の仕上げ、つや出し
- 家具調度品など木製品のラッカー仕上げ面みがき
- 合成樹脂、エポナイト製品のつや出し
- 金属表面の研削（研削量が少なく仕上面をきれいにしたいとき）
- 金属塗装面の下地みがき、さび落とし、塗り替えの際の塗料落とし

作業前の準備

ご使用前に次の準備をすませてください。

1. 漏電しゃ断器の確認

この機体は二重絶縁構造で、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

2. 継ぎ(延長)コード

警告

• 継ぎ(延長)コードは、損傷のないものを使用してください。

電源が離れているときは、電流を流すのに十分な太さの継ぎ(延長)コードをできるだけ短くして使用します。

導体公称断面積	最大長さ
1.25 mm ²	10 m
2 mm ²	15 m
3.5 mm ²	30 m

左の表は、コードの太さ(導体公称断面積)によって、機体に使用できるコードの最大長さを示します。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

3. 作業環境の整備・確認

作業をする場所が2ページの「電動工具の安全上のご注意」①、②、④項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～5項については、さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、先端工具や機体が破損する恐れがあります。また、直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる

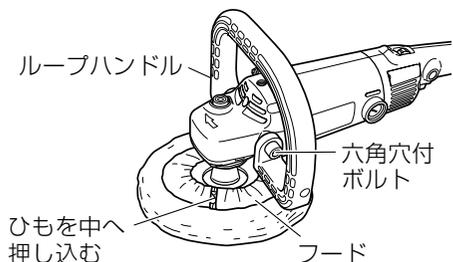
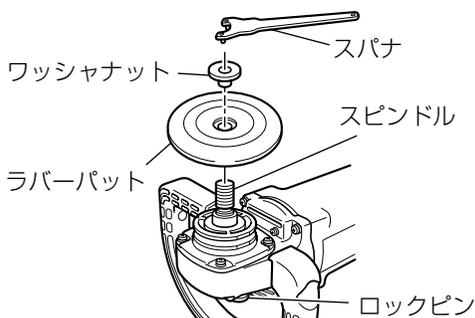
スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源コンセントにさし込むと不意に機体が起動し、思わぬ事故のもとになります。スイッチはスイッチ引金（7ページの図参照）を引くと入り、離すと切れます。

スイッチ引金を引き、離れたとき引金に戻ることを必ず確認してください。

3. ロックピンの確認

ロックピン（7ページの図参照）を押して、離れたとき確実に戻ることを確認してください。

4. 羊毛ボンネットを取付ける



(1) まず、ラバーパットにワッシャナットをはめ込みます。

(2) ロックピンを押しながら、スピンドルにワッシャナットをねじ込みます。

次にスパナを使ってワッシャナットを十分に締付けます。

(3) 羊毛ボンネットのフードを包みひもを結び、しっかりと取付けます。

ひもの余分な部分は回転中にとび出さないよう羊毛ボンネットの中に押し込んでください。

注 • 羊毛ボンネットを片寄って取付けますと、アンバランスになり振動の原因になります。

5. ループハンドルを取付ける

ループハンドルはギヤカバーの両側に六角穴付ボルト（ワッシャ付）で取付けます。

六角穴付ボルトは付属の六角棒スパナで締付けます。

6. 電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、電源コンセントがガタガタだったり、さし込みプラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

7. 試運転を行なう

注 意

- 機体のスイッチを入れるときは、機体の回転部分が加工材などに接触していないことを確認してください。
接触していることを知らずにスイッチを入れると、先端工具が破壊することがあり、けがの原因になります。
- 新しい先端工具を取付け、はじめてスイッチを入れるときは、回転部分から必ず一時身体を避けてください。

先端工具にヒビ・割れがあるのを気づかずに作業しますと非常に危険です。けがの原因になります。

作業前には人のいない方向に回転部分を向け、必ず試運転を行なって異常がないことを確認してください。

試運転は、その日の作業始めのときおよび先端工具交換のときに1分以上行なってください。

8. 溶接機に注意する

溶接機のすぐ近くで作業すると、回転が不安定になることがあります。

使 方

警 告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 機体に衝撃をかけると先端工具にヒビが入ったり、割れたりする恐れがあるので、取扱いには十分注意してください。
万一機体を誤ってぶつけたり、落としたりしたときは、必ず先端工具のヒビ、割れや、機体に破損などがないことを十分確認してください。

注 意

- 回転中、コードが先端工具に触れますと、コードが巻き込まれる恐れがありますので十分注意してください。

注 • モーターが回転中には、ロックピンを押さないでください。またロックピンを押したままでスイッチを入れないでください。

- (1) 仕上げ面は平面でも曲面でも結構ですが、仕上げ面にあまり強く押しつけると、仕上げがきれいにならないばかりでなく、モーターにも無理がかかりますので、自重程度でお使いください。(別売部品を使用時も同じです。)
- (2) 表面仕上げ程度に応じてコンパウンドおよびワックスを使用します。最高の仕上げを得るためには、細目のサンディングディスク(別売部品)で仕上げた後、羊毛ボンネットを使用してコンパウンドみがきを行ない、その後ワックス仕上げを行ないます。コンパウンドおよびワックスは仕上げ面に少量塗布して羊毛ボンネットでみがきます。
- (3) スイッチはスイッチ引金をいっばいに引いてからストップを押すと、スイッチ引金から指を離してもスイッチが入ったままになり、長時間連続使用の場合に便利です。
再びスイッチ引金を引くとストップがはずれ、スイッチ引金から指を離すとスイッチが切れます。

注 意

- スイッチのストップを使用しているとき、ストップを指で押したままではスイッチ引金を引いてもストップがはずれず、スイッチを切ることはできません。スイッチのストップを指で押したままで作業しないでください。

(4) 回転数はダイヤルとスイッチ引金の引き量で調整できます。

ダイヤル番号	※ 回転数 (min ⁻¹) {回/分}	作業の目安
1	600	みがき、つや出し等
2	1100	
3	1700	研削、さび落とし 下地みがき 等
4	2300	
5	2900	
6	3400	

※スイッチ引金をいっぱい引いた時の回転数

スイッチ引金の引き量での調整範囲は、0 からダイヤル調整値 (上表) までです。

保守・点検

⚠ 警 告

・点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

1. 各部取付けねじの点検

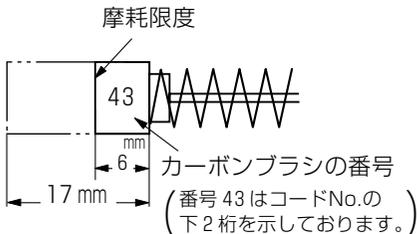
各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら、締め直してください。

ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

2. カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しています。

カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度 (6 mm) ぐらいになりましたら新品と交換してください。



また、カーボンブラシはゴミなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

注 ・新品と交換の際は、必ず図示の番号 (43) の日立カーボンブラシを使用してください。

交換方法 カーボンブラシは、⊖ ドライバーなどでブラシキャップ（7ページの図参照）をはずすと取り出せます。

3. モーター部の取扱いについて

モーター部の巻線は機体の重要な部分です。巻線に傷、洗油および水をつけないよう十分注意してください。

注 ・50時間ぐらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をハンドルの風穴から吹き込んでください。
ゴミやほこりの排出に効果があります。
モーター内部にゴミやほこりがたまると、故障の原因になります。

4. 機体や付属品の保管

機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- | | | |
|---|---|---------------------|
| <ul style="list-style-type: none">○お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所○軒先など雨がかったり、湿気のある場所○温度が急変する場所○直射日光の当たる場所○引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所 | } | このような場所
には保管しない。 |
|---|---|---------------------|

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないで買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼される時便利です。

お買い上げ日	年	月	日	販売店
製造番号(No.)				電話番号

- 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

第一営業部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟)	☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目(日生ビル)	☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号	☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟)	☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号(コスモ栄ビル)	☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0031	金沢市広岡二丁目13番37号(ST金沢ビル)	☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号(スノークリスタル)	☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号(第一生命ビル)	☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981	☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号	☎(092) 621-5772(代)

- 電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター 0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

日立工機株式会社